

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800277		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	グループホームむつみ	ユニット名	むつみ1号館
所在地	小林市野尻町三ヶ野山4336-74		
自己評価作成日	平成28年6月23日	評価結果市町村受理日	平成28年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=4571800277-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kajikokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=4571800277-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の特養施設が24時間看護体制を導入しており、夜間も看護師が常駐している事で入居者の急変時の速やかな対応が出来る。訪問看護サービス導入と他職種間との連携、ご家族の協力のもと、数名の入居者がグループホームでの終末期を迎えておられる。その中のお1人は「家に帰りたい」との望みがあられ、職員付き添いで外泊をかなえて差し上げる事が出来た。昔ながらのちまき作りやボランティアの方達によるアクティビティサポートの活用、地域の「茶のん場」にお連れすることで地域との交流を深めている。入居者のニーズに沿った外出や墓参り、買い物へご家族の協力を得ながら計画、実施している。ご家族参加のもと、収穫祭を計画し、一緒に調理をしたり、食事をともにすることで、入居者との絆を深めて頂くとともに職員との親睦を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人設立者の理念「一人ひとりの尊厳」をもとに、代表者が「地域とつながり、地域と共にある施設」として、法人主催の祭りやミニコンサート、ミニ絵画展などを開催し、また、地域の祭りや行事に積極的に参加している。職員も、利用者一人ひとりが生き生きと暮らせるように、「ふれあい活動計画」のもと、外出を支援したり、行事を計画するなど、一人ひとりが思い思いに参加できるよう支援している。終末期も多く経験しており、訪問看護利用や同敷地内法人施設の看護師との連携体制を整えている。また、重度化や終末期における家族への思いにも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針の4項目の一つに「地域住民との交流を図り、社会性の維持確認に努めている」を挙げ、年後計画を立て実践に繋げている。	法人グループの理念に沿い、ホーム独自の理念を作っているが、現状に沿った理念の見直しが必要で4年を経ている。管理者は、いかにして理念を職員間でもっと共有できるかも模索中である。	現状に即した独自の理念となるよう、全職員で見直しを行い、理念に基づき、管理者と職員とで共有して実践に取り組むよう期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	文化祭や町内の保育園、小・中学生の顧問の受け入れ、併設のデイサービスや特養の利用者との交流に努めている。昨年、学校の登校時間の見守りを行う事で、地域との交流にも取り組んでいる。	法人グループと共に積極的に地域の行事に参加し、また、独自の行事を行うことで、地域の方がホームに訪れやすいよう取り組んでいる。地域で、無くてはならない存在となるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の文化祭に参加し、作品や活動内容などを掲示することで、グループホームの生活の様子を知って頂いたり、地域の方のボランティア団体を活用する事で、認知症の人の理解や支援に活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、評議員、市役所、地域包括支援センター、家族代表者の方々にも参加して頂き、2ヶ月ごとに運営推進会議を開き、むつみだよりを通して現状報告を行い、会議で出た貴重な意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、ホームの問題や困難事例を積極的に開示し、意見を出してもらい、サービス向上に生かしている。参加者は多彩であるが、更なる地域の方の参加も模索している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市担当課、地域包括支援センター職員に参加して頂き、御利用者の生活状況、諸活動、行事等の報告を行っている。また、運営上の課題や処遇に対する指導、助言も頂いている。地域活動の情報も頂き、参加に繋げている。	運営推進会議を通じて、また、市担当課に出向くなどして助言や意見をもらい、サービス向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア一、玄関、各居室の施錠はせず、自由に過ごして頂いている。転倒の危険性のある方は、家族の了承を頂き、センサーの設置を行っている。	「一人ひとりの尊厳」をもとに、玄関、居室は施錠せず、自由に過ごせるようにしている。利用者の苦痛にならないようなセンサーを設置するなど、利用者に配慮したケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、外での高齢者虐待防止の研修に参加することで、全職員が理解、防止への教育を毎年受けている。			

宮崎県小林市野尻町 グループホームむつみ(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者となるご利用者はおられないが、入居時に家族への説明は行っている。支援の必要がある場合は、市行政、居宅支援事業所と連携を取り、必要に応じて支援していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書を基にサービスの内容や利用料金などを具体的に説明し、十分に理解し納得された上で契約を行っている。解約は、長期入院や医療的治療が必要な場合がほとんどで、退院が困難な場合が多い。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ボックスの設置や苦情受付担当者を決めると共に、家族会で家族の貴重な意見も頂いている。また、家族満足度調査アンケートも実施し、ご家族の意見、要望、苦情等を表せる機会も設け、改善のための指導、教育も受けている。	家族満足度調査アンケートを実施したり、年2回の家族会の場で意見が出せるような雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の運営に関する事項については、経営会議運営会議に管理者が代表で参加している。グループホームでは、月1回の処遇会議を開き、職員より意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は、普段の業務の中で、また、月1回の処遇会議にて現状の意見や提案をだしている。代表者が積極的に職員処遇について取り組み、管理者と話しながら前向きに話ができるような機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定を整備し、職員の個々の努力や勤務実績により正規職員への登用を図る等、キャリアパス構築に向けた取り組みを行っている。労働時間についても、就労時間の適正化に向けた取り組みを行っている。メンタルヘルスケア担当者を定め、仕事に対する悩みや相談に対して助言する体制作りに取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者の尊厳を目的とした接遇の指導を行っている。施設内・外の研修、講習会にも計画的に派遣し、カリキュラムに基づく新人職員研修、プリセプターシップを導入し、入社後1年間は指導者の下で業務目標を設定し、3ヶ月毎の評価を行い、育成に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び県政ブロック協議会に加入し、近隣施設を訪問したり、他職員と協議する機会や事例発表を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。町内のグループホーム連絡協議会(びっきょん会)にも加入し、ケアの向上に向けた情報交換や各施設の職員との懇親会にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優しい言葉がけと笑顔で接し、施設や職員に対して違和感を持たれないように努力している。表情や行動を細かに観察し、不安感や要望等にはしっかり傾聴する事で、安心と信頼関係に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅支援事業所との連携を密にし、家族の疑問点や要望、不安に対しての十分な説明を行い、希望される方には事前に施設見学をして頂くなどの対応を行っている。入所契約時には、サービス内容や費用についても詳しく説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様がその人らしい生活が継続できるよう、今必要な支援を見極めるためのカンファレンスを実施し、対応に努める。認知症の進行や疾病の悪化に伴い、共同生活が困難と判断した場合は、併設する特養への移動についてご家族と協議し、承諾を得ている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを兼ね、洗濯物たたみや御膳拭き、食材の下ごしらえなどの軽作業や個々にあったレクリエーション、軽体操を取り入れ、日々の生活に生きがいと楽しみを持って頂く事で支えあう関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	諸行事、誕生会、外食、外出、墓参り等に家族へ参加の声掛けを行い、楽しみを共有して頂いている。面会時に生活の様子や体調状況を細かに説明し、本人様の状況を把握して頂く事で、共に本人様を支えあっている。遠方の家族とも連絡を取り、関係が希薄にならないよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問や墓参りの実施、入居前に住んでおられた地域の生き生きサロンや町内の夏祭りに参加している。併設するデイサービスや特養利用者様で馴染みの方との面会を行っている。	一人ひとりが生き生きと生活をし、一人ひとりの地域とのつながりが途切れないよう、「ふれあい活動計画」を作成し、なじみの人、場を絶やさないう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握することで、孤立されないよう、共に楽しく暮らせるような空間づくりを行っている。また、落ち着いて過ごせるよう、ソファやテーブルの配置にも気配りし、安全な環境づくりを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの理由で退所、移動された後でも、面会に出向くなど、継続して家族や本人様と関わりを持つようにしている。納涼祭りでは、亡くなられた利用者様の追悼花火をあげて、家族の皆様と共に在りし日を偲んでいる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや日々の会話から、本人様や家族の希望、意向をお聞きし、墓参りや買い物、自宅訪問、外食、知人との面会などの取り組みやどのような暮らしを望んでおられるかの把握に努めている。		「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、日々の会話から、利用者、家族の思いや希望を聞きやすい雰囲気づくりに努めている。各利用者の24時間シートの作成を検討しており、さらに思いや意向の把握ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や食器、テレビの持ち込みで馴染みの暮らしができるような居室作りに努めている。今までの生活歴や環境、サービス利用の経過を把握することで、好む事、出来る事の支援に繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活を十分に理解し、個性に応じた生活の実施継続に努めている。既往歴対応も全職員が把握できるよう文章を作成している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、見直しの際、本人様、家族、看護師、栄養士、担当、主任等の関係者全員で、その時の状況に応じた意見や対応法などを出し合い、安心して暮らして頂けるように計画している。遠方の家族に対しては、お電話でお聞きし、確認後書類を郵送している。		3か月に1回、計画の見直しを行っており、利用者、家族を含め関係者全員が参加している。「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、本人の状態や家族の要望などを聞き取り、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の健康状態、食事、水分摂取量、排泄状況、入浴等の基本的な項目をケア記録に記入すると共に、プランに基づくケアの実践状況や状態報告を記録している。職員間の情報は連絡簿で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族のニーズに合わせて、お誕生日、お盆、お正月帰省時の自宅への送迎などの支援も行っている。希望者には髪染めも行っている。			

宮崎県小林市野尻町 グループホームむつみ(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	教育団体や地域住民のボランティアを積極的に受け入れている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の家族の意向を確認し、定期受診、専門医の受診を行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態については、毎日、併設する特養の看護師の巡視があり、状態報告を行っている。必要に応じてかかりつけ医の指導による医療的処置や看護を行っている。夜間の急変時には、併設する特養の夜間看護師に報告し、指示を仰ぐ。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人への面会に出向き、病院での状況を把握し、退院の許可が出た場合は速やかに対応している。退院後の生活に必要な情報については、医療機関より情報を収集している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意思・意向を把握している。重度化してきた時点で再度確認を取り、終末期に向けた方針を共有し、支援に取り組んでいる。		利用契約時に重度化や終末期ケアの指針について説明をし、同意を得ている。重度化した時点で再度確認をして、終末期に向けての支援を行っている。終末期の対応や看取りの実績も数例あり、訪問看護や同敷地内の法人グループ施設の看護師が支援できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応についてマニュアルを整備し、職員への周知を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特養職員、地域住民、消防署隊員による総合防災訓練に参加している。施設全域の避難訓練にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、尊厳の気持ちで接している。プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。		「一人ひとりが尊厳を持って暮らせる」をもとに、職員は、一人ひとりのプライバシーが保てるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係作りに取り組んでいる。言葉での意思疎通が難しい方に対しても、短い単語でも理解できるように職員側も努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、睡眠、諸活動の参加など、本人様のペースや意思を尊重し、できるだけ希望に添えるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の女性理容と要望に応じて髪染めも行っている。敬老会、母の日、お誕生会などの行事の際は、薄化粧やおしゃれ着で身だしなみを整えての参加を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り(ぼた餅・ちまき・いりこ餅・吊るし柿)や季節の野菜の下ごしらえ、味見や御膳拭きなどを一緒に行っている。		季節のおやつ作りや料理の下ごしらえ、味見など、利用者一人ひとりができる範囲で取り組めるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や看護師と細かに連携を取り、体調や摂取状況に応じて、食事形態の変更や代替えの提供などを行っている。ミキサー食も見目や彩に配慮を行い、カロリー食なども提供している。色々な飲み物を提供することで、水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きとうがい、義歯の洗浄、夜間の義歯の消毒を行うことで、清潔保持に努めている。うがいがうまくできない方は、ハイガーゼの使用で口腔ケアを行っている。希望者は月1回の歯科検診も受けておられる。			

宮崎県小林市野尻町 グループホームむつみ(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、利用者お一人おひとりの排泄パターンや尿間隔を把握し、時間を見て促すことで失敗を減らし、可能な限りトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの習慣や排せつパターンなどを把握し、排せつチェック表も利用して、トイレでの排せつができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無排便注意者を日勤終了後に確認し、3日目の時は芋飴を使用し排便を促したり、朝食時にきな粉牛乳を飲んで頂くなど、個々の状態に応じて下剤に頼らない工夫を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの希望時間では無いが、日に応じて順番を変えたり、体調に合わせて清拭を行ったり、時間や日程を変更して、できる限り気持ちよく入浴を楽しんで頂けるよう、その日の体調状態を把握して行っている。	利用者一人ひとりの体調や気分に合わせ、時間や日程を調整しながら支援している。また、気分が変わるよう入浴剤を使うなどして、入浴が楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にホールと居室を行き来され、休みたい時間に休みたい場所で休息して頂いている。安心して気持ちよく眠れるよう、寝具調整や室温調整、明かりの調整等の支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬内容を理解する為、カルテへ服薬説明書を添付している。服薬を確実にを行うため、2人以上で確認し、3回以上の声出し確認と指さし確認にて誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自無理のない範囲で出来る事を見極めて、お手伝いをして頂いている。役割や楽しみを持たせる事で生き生きとした表情がみられる。日中の楽しみに諸活動や行事の参加を促し、気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加(文化祭・夏祭り・お茶ん場会等)へお連れしたり、本人様や家族からの希望があれば外出は可能であり、外出先への送迎や職員や家族が付き添う事で対応している。買い物や施設近辺の散歩も取り入れている。	利用者からの希望や「ふれあい活動計画」に基づき、家族の協力を得ながら外出ができるよう支援している。同敷地内法人の施設の雑貨コーナーや喫茶店へ出向いたり、周辺を散歩するなどの外出支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	むつみ1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができない方については事務所で管理し、必要に応じていつでもご利用できるようにしている。近くの店や本館の売店を活用し、買い物を楽しめるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望や状態に応じて家族への連絡を行い、自由に会話ができるよう配慮している。携帯電話を所持しておられる利用者もおられ、ご家族と自由に連絡が取れるように支援している。年賀状の手配も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者の意向を聞きながら居心地よく過ごせるよう工夫や配慮を行っている。季節に応じて刺激(音・光・色・広さ・温度)の調整を行いながら、季節感の設営も取り入れられている。	共用空間には、季節を感じるができるよう、利用者の作品や季節の作り物を展示している。畳とテーブル、ソファと、一人ひとりが思い思いに過ごすことができるよう工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを配置し、ゆっくり寛げる空間を提供している。本人の意思や思いを優先に、居心地の良い居場所の配慮や工夫、車椅子の方が自由に安全に操作できる居場所も確保している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(タンス・テレビ・イス)、寝具、思い出の写真や花を飾り、毎日掃除の支援を行うことで、一番落ち着く空間の提供に努めている。	使い慣れた家具や思い出の写真・家族の写真を置いたり、利用者の趣味の作品を飾ったりすることで、居室が利用者一人ひとりの落ち着いた空間となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内を、車椅子や杖歩行でも自由に移動できるよう安全面を配慮し、必要でないものは置かないようにしている。同じ部屋作りの為、間違っても不安にならぬよう居室の入り口に表札を付けさせて頂いている。			